


## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品等の名称：	かびどめL
社名：	サンデーペイント株式会社
住所：	〒554-0012 大阪市此花区西九条 6 - 1 - 1 2 4
担当部門：	お客様相談室長
電話番号	06-6466-6700
FAX番号	06-6466-2751
緊急連絡先	06-6466-6700
推奨用途及び使用上の制限	カビ防止剤
整理番号	604-0001

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性		分類基準に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入：蒸気) 皮膚腐食性/刺激性 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器/全身毒性(単回曝露) 特定標的臓器/全身毒性(反復曝露) 吸引力呼吸器有害性	区分外 分類できない 分類できない 区分3 区分2B 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない
環境に対する有害性	水性環境急性有害性 水性環境慢性有害性	区分3 分類できない
GHSラベル要素		
絵表示		

注意喚起語：	警告
危険有害性情報	軽度の皮膚刺激 眼刺激性物質 水性生物に毒性

注意書き：	<b>【予防策】</b> 取扱後は良く手を洗うこと。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 環境への放出を避けること。 <b>【対応】</b> 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗うこと。 眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。 <b>【保管】</b> 容器を密閉し保管すること。
-------	--

**【廃棄】**

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

**【使用上の注意】**

安全データシートを参照してください。

**3．組成、成分情報**

---

化学物質・混合物の区分	混合物		
化学名		濃度範囲	CAS No.
有機ヨウ素系防カビ剤、アルコール系溶剤、非イオン性界面活性剤 ヒノキ精油、ヒバ精油、ヒノキチオール		10-30	非公開

**4．応急措置**

---

吸入した場合：	被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させる 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合、衣類をゆるめ呼吸気道確保の上で人工呼吸を行う。体を毛布などでおおい、保温して安静を保つ。 直ちに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合：	大量の水と、石鹸で洗うこと 皮膚に炎症を場合、外観に変化があるか、痛みがある場合、直ちに医師の手当てを受ける。
眼に入った場合：	直ちに清浄な流水で15分以上目を洗浄した後、医師の手当てを受ける。 洗眼の際、眼瞼を指で開いて眼瞼、眼球のすみずみまで水がよく行きわたるように洗う。 コンタクトレンズを使用している場合、固着していない限り、取り除いて洗浄を続ける。
飲み込んだ場合：	水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませる。応急措置を速やかにに行い、必ず医師の診断を受けること。被災者に意識が無い場合には、口からなにも与えてはならない。

**5．火災時の措置**

---

消化剤：	粉末、炭酸ガス、泡、水噴霧、砂。
使ってはならない消化剤：	情報なし
火災時の特有危険性：	火災時に刺激性のガスを放出する。
特有の消火方法：	火災の場合、周囲の設備、ドラム缶などに散水して冷却する。 火災を増大させる危険性があるものを周囲から速やかに取り除く。 消化活動は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消化方法を用いる。 大規模火災の際には、泡消化剤などを用いて空気を遮断することが有効である。消化により生じる流出物を回収する。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 消化を行う物の保護(保護具等)：消火作業の際には空気呼吸器などの保護具を必ず着用する。

**6．漏出時の措置**

---

人体に対する注意事項：	作業には、必ず保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
保護具及び緊急時措置：	多量の場合は人を安全な場所に避難させる。必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項：	環境中への放出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法：	少量の場合、漏洩した液は土砂、ウエスなどに吸収させて密閉可能な空容器に回収する。場合、漏洩した液は土砂等でその流れを止め、空容器にできるだけ回収する。
二次災害の防止策：	床に漏れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因になるので注意する。回収物の収容器は、内容物の処分を行うまで密封する。

**7．取扱い及び保管上の注意**

---

取扱い	
技術的対策：	取扱場所近くに、洗顔及び身体洗浄の為の設備を設置する。
注意事項：	作業中は飲食、喫煙をしない。
安全取扱い注意事項：	初めて取り扱う場合、MSDSなどにより物質の性状や安全性情報及び法規を理解し、万一の場合の対策を検討した上で取り扱うこと。 取扱いは換気の良い場所で行い、洩れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させない。

適切な保護具を着用し吸い込まないよう、眼、皮膚に触れないようにする。  
取扱い後は、手、顔などをよく洗う。

#### 保管

適切な保管条件： 直射日光を避け、冷暗所(5～35℃)で容器を密封して保管する。  
安全な容器包装材料： 消防法、船舶安全法、航空法などの法令に定めるところに従う。

### 8．曝露防止及び保護措置

---

管理濃度： 設定されていない。  
許容濃度： 設定されていない。  
設備対策： 局所排気装置を使用する。  
保護具  
呼吸器の保護具： 必要により有機ガス用防毒マスク。  
手の保護具： 耐油性手袋  
眼の保護： 保護眼鏡、ゴーグル又は防災面  
皮膚及び身体の保護： 保護衣、長靴、前掛け（静電気防止対策用を用いる）等の中から作業の状況に適したものを使用する。  
適切な衛生対策 洗眼、手洗い設備を設置する。全身シャワー設備があればなおよい。  
取扱い後はよく手を洗う。

### 9．物理的及び化学的性質

---

外観： 淡黄色透明液体  
臭気： 木材臭  
pH： 7.5～8.5（原液）  
比重： 約1.0  
溶解性：水に対する溶解性：溶解  
沸点： データなし  
凝固点： データなし  
引火点： データなし  
発火点： データなし  
爆発限界： データなし

### 10．安全性及び反応性

---

安定性： 本品に含まれる有機ヨウ素系防カビ剤は強酸、強塩基により分解される。  
反応性： 自己反応性は無い。  
避けるべき条件： 情報なし  
危険有害な分解生成物： 情報なし。

### 11．有害性情報

---

急性毒性： データなし  
皮膚腐食性/刺激性： データなし 混合物の濃度限界値より区分3  
眼に対する重篤な損傷/刺激性： データなし 混合物の濃度限界値より区分2A  
呼吸器感作性/皮膚感作性： データなし  
生殖細胞変異原性： データなし  
発がん性： データなし  
生殖毒性： データなし  
特定標的臓器/全身毒性： データなし  
（単回曝露）  
特定標的臓器/全身毒性： データなし  
（反復曝露） データなし  
吸引性呼吸器有害性 データなし

### 12．環境影響情報

---

生態毒性： データなし 水生環境有害性(急性) 加算法の摘要区分より 区分2  
残留毒性/分解性： データなし  
生体蓄積性 データなし  
土壤中の移動性： データなし

オゾン層への有害性： データなし

### 13. 廃棄上の注意

---

残余廃棄物： 廃棄においては、廃棄物処理法などの関係法規や地方自治体の条例に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合、そこに委託して処理する。  
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

燃焼法： 残余物を廃棄する場合は排ガス吸収装置がある焼却炉で行う。  
少量の場合、珪藻土・ウエス等に吸収させて開放型の焼却炉で少量づつ焼却する。  
大量の場合、焼却炉の火室に直接噴霧し焼却する。燃焼福生成物を押さえるため、燃焼温度と滞留時間の管理が重要である。

汚染容器及び包装： 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処理を行う。  
空容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に行う。

### 14. 輸送上の注意

---

国際規則： 航空輸送はICAO/IATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。  
国連番号： 国連の分類基準には該当しない  
国連分類： 国連の分類基準には該当しない

国内規則：  
陸上規制情報： 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。  
海上規則情報： 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

特定の安全対策及び条件： 容器に漏れがないことを確認し、落下、転倒、破損がないように積載し、荷崩れ防止を確実にを行う。

### 15. 適用法令

---

化学物質管理促進法： ポリオキシエチレンアルキルエーテル(C12-15) 第1種指定化学物質 No407  
労働安全衛生法： 該当しない  
船舶安全法： 該当しない  
航空法： 該当しない  
消防法： 該当しない

### 16. その他の情報

---

#### 引用文献

- 1) GHS分類対象物質一覧：<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/index.html>
- 2) NITE:化学物質総合検索システム <http://www.saft.nite.go.jp/japan/sougou/>
- 3) NITE:有害物質評価書 Ver.1.1
- 4) 日本ケミカルデータベース(株)
- 5) 国際化学物質安全性カード <http://www.nihs.go.jp/ICSC/icssj-c/icss1276c.html>
- 6) 化学物質の分類および表示に関する世界調和システム 化学工業日報社

記載内容は、本データシート作成時点で入手できた資料や情報に基づいていますが、新しい知見により改訂されることがあります。  
ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確を保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性が有りえるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってください。

以上